

IoTなど新産業の潮流を探る

静岡県中部未来懇話会 平成27年度臨時社員総会

28年度事業計画など承認

新会長に大石静岡新聞社長選任



一般社団法人・静岡県中部未来懇話会の平成27年度臨時社員総会が3月11日、静岡市のホテルアソシア静岡で開かれた。正会員、特別会員、賛助会員合わせて約100人が出席し、28年度事業計画などを原案通り

承認した。

事業計画の柱となる年間調査研究テーマは「地域の分水嶺リスクを超えて挑戦する」。日本経済は、大手企業を中心に収益は伸び、有効求人倍率も23年振りの高さを示す一方、民間設備投資の減少で4〜6期のGDPがマイナスとなるなどマイクロとマクロの乖離が見られる。

中国経済も不確実性を増す一方、IoTやインダストリー4.0、AI、フィジックなど産業の新潮流も押し寄せている。人口減少が深刻化する中、本県も大きな転換点に立っている

のは間違いない。そこで次年度はこうした問題意識を踏まえつつ、リスクを超えて挑戦する企業経営や地域経営の道を探る。

具体的には春（6月）は「産業の新潮流に挑む企業経営」秋（10月ごろ）は「地方創生の条件」地域エコシステム構築を目指して」と題して2回、シンポジウム



ムを開催し、基調講演とパネル討論を通じて討議す

る。

議事では28年度収支予算案も了承した。また、総会後の理事会で松井純代表理事会長の退任に伴い、後任に大石剛静岡新聞社社長を選任した。

当懇話会の提言で設置された「中部地域経営会議」について、前年度の「中部地域の創生ビジョン」起業・創業編」に続いて「女性の活躍編」を研究している経過が報告された。

総会後、政治ジャーナリスト後藤謙次氏による記念時局講演会「伊勢志摩サミットと参院選の行方」が行われた。

（4〜5ページに講演抄録）



講演会后、会員親睦会も開かれ、政治や経済などについて意見を交わした。